

公益財団法人 九州先端科学技術研究所

所管事務調査（令和8年度）

目 次

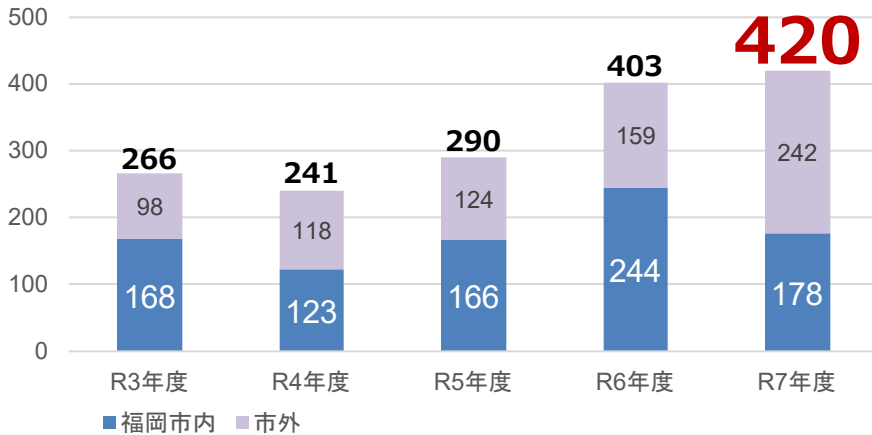
1． 高度な分析技術を活用した事業者支援	P1
2． DXに取り組む事業者支援	P2
3． エンジニアを育成するイベントの実施や情報発信	P3
4． 次世代エネルギー技術の社会実装に向けた企業との連携	P4
5． オープンデータの利活用の促進	P5
6． 市民・企業向けの啓発・PR活動	P6

1. 高度な分析技術を活用した事業者支援

電子顕微鏡などの分析機器を活用しながら、地場企業等が抱える課題について技術支援を実施。

金属加工や食品関連など様々な分野からの相談に対し、品質改善や製品開発等をサポートし、市内企業の新商品開発や技術力向上に貢献。

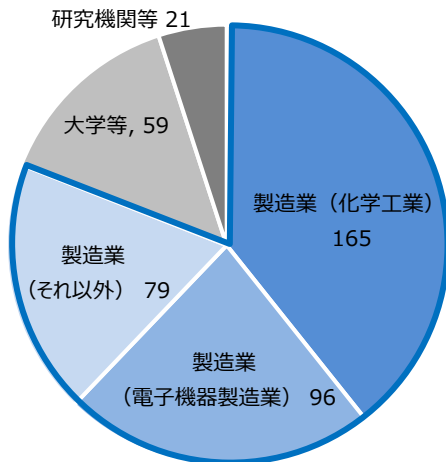
分析・解析よろず相談事業『分析NEXT』対応件数



＜令和7年度相談実績＞

83企業・大学等から
420件の相談に対応

分析NEXT対応件数（420件）の企業の業種分類および主な支援内容



- ・製造業（化学工業）
 - ・フィルム製品の機能強化
 - ・医療製品改良に向けた成分分析 等
- ・製造業（電子機器製造業）
 - ・有機光材料の品質分析
 - ・半導体改良に向けた関連素材の分析 等
- ・製造業（それ以外）
 - ・食品添加製品の機能性向上
 - ・プラスチック製品のリサイクル活用についての相談対応 等

市内製造業の分析事例

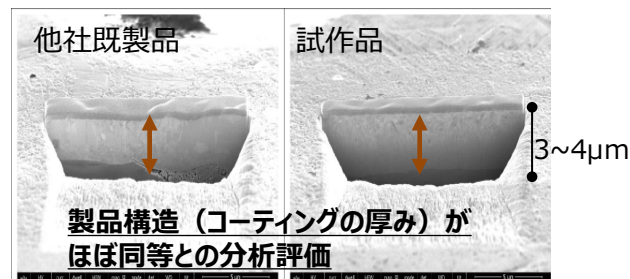
◆依頼内容◆

他社が製造していた金属製品を引き継ぐ予定で、自社で同等レベルの製品が製造可能か検証するため、既製品と試作品を比較分析してほしい。

◆対応◆

FIB-SEM（電子顕微鏡）を使用し、製品構造（コーティングの厚み）を比較分析。

「同等レベルの製品を製造している」という分析結果を提供することで、企業の商品開発に貢献



* 1 μm(マイクロメートル)は1/1000mm

2. DXに取り組む事業者支援

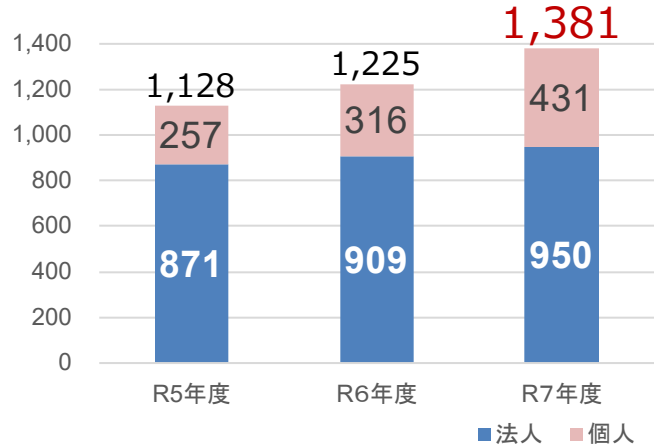
AI、IoTおよびDX関連事業者・大学・金融機関等が参加するオープンなコミュニティ（名称：福岡DXコミュニティ）を運営し、セミナーや勉強会等を通して、データを活用した地域の課題解決の事例や知見を共有し、事業者のDXへの取組みを支援するとともに、AI、IoTおよびDX関連分野における新製品やサービスの創出につなげる。



1,381 会員

法人 950
（市内490 県内市外38 県外422）

個人 431 «R8年3月末時点»



市内企業等への主な支援内容

（1）啓発・機運の醸成

市内企業等のDX推進に向け、各種勉強会やセミナー等を開催し、『自社でもDXに取り組んでみよう』という機運の醸成を図った。また、生成AIの最新情報や取組み事例を共有し、自社での生成AIの活用を推進した。

27回開催 のべ **1,063**名参加

テーマ例

- ・ビジネスの最前線に立つためのAI活用術
- ・生成AIビジネス最前線・AIエージェントの最新活用法
- ・真のDX・AI活用を実現するために取組むべき勘所



セミナーの様子

（2）伴走支援 9社

自社の人材を活用してDXに取り組む企業の支援を行った。

<主な支援事例>

- ・物流会社のAIを活用した配車計画システムの自社開発支援
- ・卸売・小売会社のAIの需要予測モデルの自社開発支援
- ・アプリと連携した廃棄物の資源循環型サービス検討の支援
- ・店舗の出店を支援する地域データマップの設計の支援
- ・行政書士事務所の車庫証明等の申請書類作成ツールの自社開発支援
- ・税理士業のAIを活用した書類の自動仕訳システムの自社開発支援



打ち合わせの様子

3. エンジニアを育成するイベントの実施や情報発信



Engineer Friendly City
Fukuoka

エンジニア不足を解消するため、エンジニアフレンドリーシティ福岡の取組みとして、エンジニアの裾野の拡大につながる、エンジニアの発掘・育成等に取り組んだ。

エンジニアの発掘・育成

現役エンジニアのサポートを受けながら、アイデア出しからプロダクトの開発までを体験するハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day (EDD)」を通じて、エンジニアの発掘・育成を推進した。

また、大学や専門学校と連携し、アプリ開発等におけるアイデアづくりの講座を行うなど、学生のものづくりへの興味・関心の向上を図った。



EDDでのプロダクト開発を通じたエンジニアの育成



アプリ開発初心者が、「AIを活用してみたい」という思いから、EDDに参加し、エンジニアとしての活動を開始。メンターのサポートや生成AIを活用し、アプリを制作した。

家庭菜園での種のまき忘れといった自身の経験をきっかけに、AI管理アプリを開発し、その完成度の高さが大きく評価された。

エンジニアフレンドリーシティ福岡アワードの実施

福岡のエンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する「エンジニアコミュニティ」や、エンジニアを取り巻く環境の充実に取り組む「企業」、優れたプロダクトを開発したチームを表彰。エンジニアが働きやすい環境づくりや成長につながる取り組みを地域全体で推進する機運の醸成を図った。

情報発信

EFCの取組みやイベント情報のほか、学生等がエンジニアに興味を持ってもらうため、企業やエンジニア等のインタビューをWebサイトで発信した。

4. 次世代エネルギー技術の社会実装に向けた企業との連携

次世代エネルギー技術として注目されている、環境熱発電やペロブスカイト太陽電池の社会実装に向け、研究開発を企業と共に実施。

環境熱発電素子の高性能化

企業等との共同研究で開発した、日常の生活環境で発生している熱（室温程度の微弱な熱エネルギー）から発電する環境熱発電技術の実用化に向け、九州大学、ISIT、(株)GCEインスティテュートと連携しながら、発電能力の高性能化に取り組んだ。



「環境熱発電の社会実装の例」

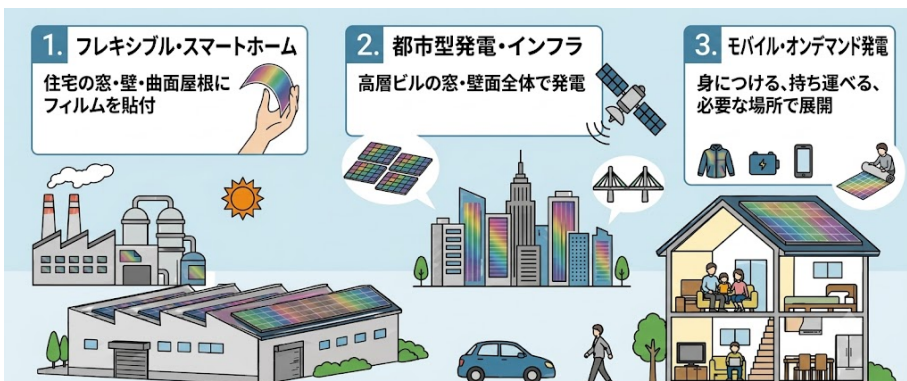
- ・体温で動くペースメーカー
- ・電池交換不要の水位測定センサー

等々

現在の発電能力 $0.5\mu\text{W}/\text{cm}^2$ を $10\mu\text{W}/\text{cm}^2$ まで高性能化することを目指し、共同研究に取り組んでいく。

ペロブスカイト太陽電池の高性能化

ISITでは、ペロブスカイト太陽電池の実用化につながる材料等の性能評価技術を有している。ペロブスカイト太陽電池の実用化には、耐久性・発電効率の低さ等の課題があり、今後、性能評価技術を活用して、企業等の新たな材料研究を後押しすることで、高耐久、高発電効率のペロブスカイト太陽電池の実用化に向けた企業支援に取り組んでいく。



「ペロブスカイト太陽電池の社会実装の例」

- ・半透明で軽くて曲がるシート
高層ビルの壁面や窓全体を活用し発電
- ・災害時の臨時電源として活用

5. オープンデータの利活用の促進

デジタル社会の実現を目指し、誰でも簡単にオープンデータの利活用ができる社会を実現するために、データ公開から活用までの支援を実施。



BigData & OpenData
Initiative in Kyushu

各自治体がそれぞれで管理しているオープンデータを一括で検索することができるサイトを運営。飲食店や理容店の営業許可情報等、自治体の保有するビジネスにつながるオープンデータを公開。

※ オープンデータとは・・・

官民協働の推進を通じた課題の解決、経済の活性化、行政の高度化・効率化等を目的に、自治体などが保有するデータのうち、インターネット等を通して自由に利用できるよう公開されたデータのことを指す。

日本最大規模の
オープンデータサイトを運営

検索可能自治体数

1,174 /1,788

(R7年度末時点)

サイトアクセス数

413万件/年 → **454**万件/年

(R6年度末)

(R7年度末)

オープンデータを活用した実証実験

オープンデータ利活用による市民生活の利便性向上に向け、データ連携基盤による複数自治体のオープンデータの広域連携や事業者が持つオープンデータの利活用等の可能性について、技術的実証・検証に取り組んだ。

●施設予約システムの広域連携



複数自治体の施設予約システムの統合検索アプリ

市民の利便性向上に向け、自治体を跨いで近隣の公共施設を検索できる広域施設検索アプリを開発。自治体の既存システムを改修することなく、4自治体の施設情報及び空き状況を確認できるシステムの技術的実証に取り組んだ。

(実証期間：令和7年10月～8年3月)

●キッチンカー情報の発信



マップアプリからキッチンカーの位置や営業情報を確認

FDC（福岡地域戦略推進協議会）が実施した、キッチンカーの営業情報をデジタルマップ上でリアルタイムに可視化する実証実験において、(株)Mellowの持つキッチンカーの情報を市のデータ連携基盤に連携させる技術支援を行った。

*データ連携基盤とは・・・

自治体や企業、大学など様々な主体が持つデータを集約し、必要な形式に変換して提供・共有する官民データ連携の仕組みのこと。

6. 市民・企業向けの啓発・PR活動

最先端科学技術を身近に感じてもらい、理解を深めてもらうことを目的に、様々なイベントを実施し、のべ572名の市民・企業関係者が参加。

キッズAIスクール in 夏休み（中学生編）

開催日：令和7年8月1日（金）

内容：LINEヤフーコミュニケーションズ(株)と共催で、中学生を対象に、生成AIの使い方を学べるワークショップを開催。

参加者数：22名



小中学生向け夏休み体験実験

開催日：令和7年8月2日（土）

内容：小中学生の科学技術の理解促進を目的として、九州大学の先生等によるレクチャーと先端顕微鏡を使った実習を実施。

参加者数：56名



九州大学で学ぶ水素エネルギー「子どもサイエンス教室」

開催日：令和7年10月4日（日）

内容：水素エネルギーミニ講義や発電実験、施設見学を実施。

参加者数：70名



設立30周年記念WEEK

開催日：令和7年11月11日（火）～14日（金）

内容：設立30周年を記念して、DX・AI・GX・ナノテク分野をテーマにした講演やワークショップを開催。

参加者数：370名



サーキュラーエコノミーセミナー

開催日：令和8年1月26日（月）

内容：サーキュラーエコノミーの基礎知識のほか、産業支援機関による支援事業や、企業・大学の実践的な取り組みなどについて紹介。

参加者数：54名

